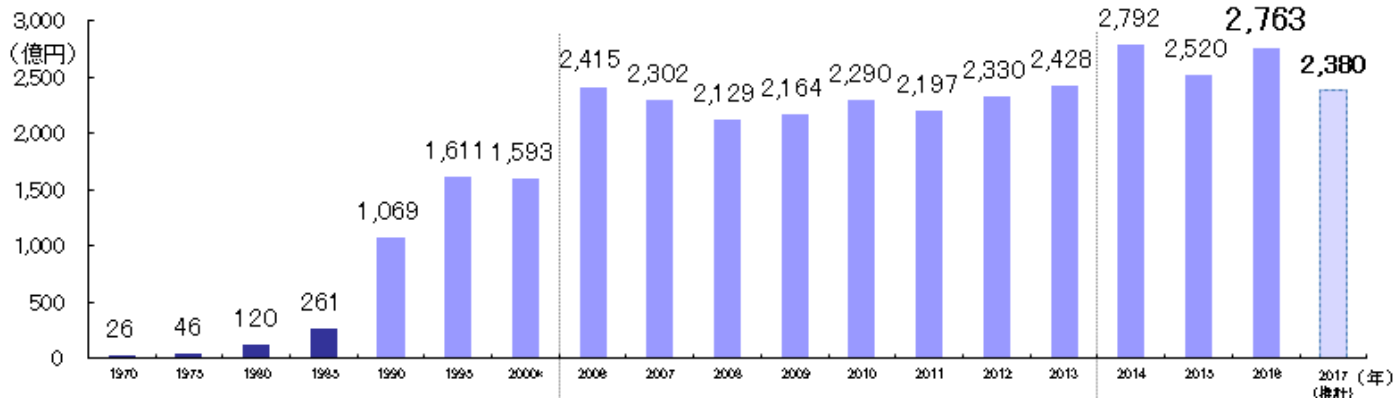


# 『君の名は。』が市場に大きく寄与 2017年はその反動を受け、縮小する見込み

## ◆アニメーション市場規模の推移＜1970-2016年（2017年推計）＞



\*2000年以前は5年毎 注 2004年より配信を含む。2014年より配信市場の算出方法を変更

### ＜市場の範囲＞

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト（セル／レンタル）、テレビアニメ、配信（PC、IPTV、スマートフォン・フィーチャーフォン向け）

注）算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2016年（暦年）のアニメーション市場規模（ユーザー支出額）は劇映画市場においてヒット作が多く登場したことを受けて大きく伸長した結果、合計2,763億円となり、前年比109.6%となりました。

劇映画市場は7月に上映された新海誠監督の『君の名は。』が興行収入250億円を超える大ヒット作となり、市場を大きく牽引しました。また、『君の名は。』以外にも、『名探偵コナン 純黒の悪夢』『ズートピア』など邦画、洋画ともに50億円を超えるヒット作が多く排出され、劇映画市場は大きく拡大しました。

テレビアニメ市場は、地上波放送の制作本数減少が続いており、微減となっています。衛星・CATVは市場全体が堅調に推移し、微増となりました。

ビデオソフト市場は、前年から引き続き大幅な減少となりました。セルビデオ市場はヒット作が少なかったことや、動画配信サービスの普及などの影響により、縮小が続いています。セルビデオ市場全体mp減少が続いており、パッケージ販売の苦戦が続いています。レンタルビデオ市場は安定しており、微増となりました。

配信市場は、動画配信サービスの利用が進んでおり市場は成長を続けています。各種動画配信サービスが会員数を伸ばしており、動画配信サービスは普及してきたといえます。アニメは各サービスにおいて主力コンテンツのジャンルになっており、利用者の多いジャンルと言われています。

2017年の劇映画市場は、『君の名は。』の反動を受け、縮小すると予想されます。ビデオソフト市場は4Kテレビに対応したULTRA HD Blu-rayを発売するなど新たな対応を行っていますが、減少傾向は続く見込まれます。配信市場は順調に成長していくことが見込まれますが、ビデオソフト市場の減少を補う規模には達していません。こうしたことをふまえ、2017年のアニメーション市場は2,380億円になると推計されます。

### ＜本リリースに関するお問い合わせ＞

株式会社 メディア開発総研 担当：近藤 TEL:03-5261-8927 FAX:03-5261-8928 e-mail: info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット（メディア開発総研発表）を入れていただくか、上記担当へ連絡をお願いいたします。